# 令和６年度　島根県学力調査結果及び分析

**松江市立宍道小学校**

## 【１】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（〇成果／●課題）

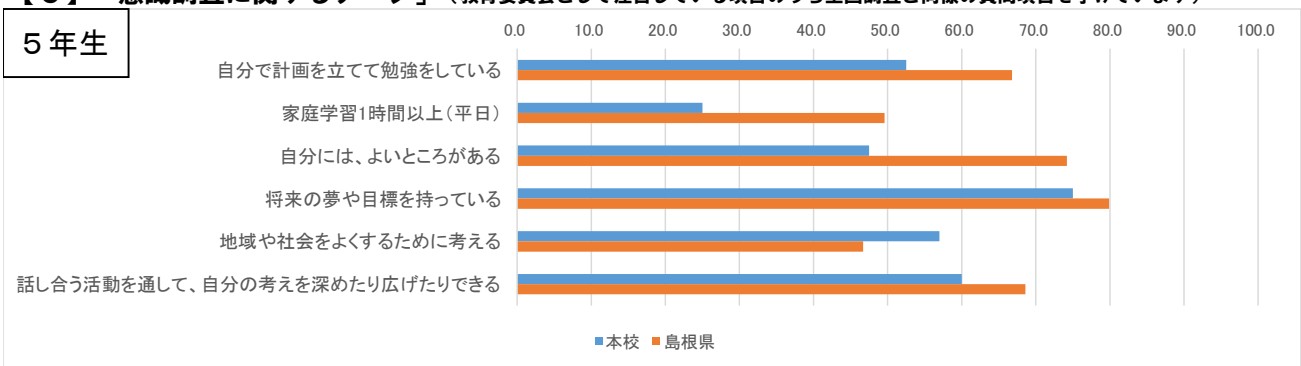
| | 5年生 | 6年生 |
|---|---|---|
| 国語 | 〇グループ学習を取り入れ、一人では考えが持ちにくい児童でも、考えを共有しているうちに、書けるようになってきて、基礎的な力が定着している。<br>●分からないところを先生に聞いているという回答が低い。わからないところをそのままにしてしているところを改善していくと、学力向上につながると考える。 | 〇友だちと意見を出し合い考えを深める活動に力を入れて授業を行ってきた結果として、前年度の本校と比較して「話すこと・聞くこと」の正答率が13ポイント向上しており、県平均も上回っている。<br>●知識・技能の観点で課題が多くあり、特に漢字の学習では書ける児童と書けない児童で二極化している。漢字の書く力の底上げが必要である。 |
| 算数 | 〇図形の学習では、実際に等積変形をして、公式に結び付けたり、いろいろな考えを認める活動を繰り返してきた。<br>また、分数計算の通分では、量感を大切にした導入、分数づくりなどに力を入れたので、機械的な計算に終わらず、意味理解ができていることが正答率につながっていると考える。<br>●問題量に対して、回答できた問題数が少ない、無回答が多いなどの理由で正答率が少ない。 | 〇全国学力学習状況調査では、図形領域で大きな課題があったため、図形分野の基礎に力を入れて算数科の授業に取り組み、県学力調査では、拡大図と縮図の問題で県平均を上回っている。<br>●算数では全体的に学力が二極化しており、図形領域以外でも基礎基本の見直しが必要である。 |

## 【２】「意識調査」結果から見られた成果と課題（〇成果／●課題）

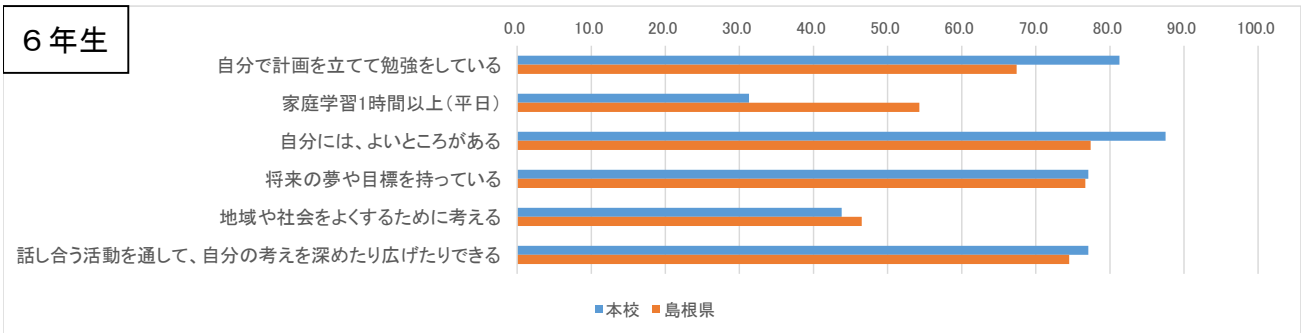
| | 5年生 | 6年生 |
|---|---|---|
| 意識 | 〇ノートづくりに力を入れて授業を行ってきた結果として、「国語（算数）の授業ではきちんとノートをとっている」の肯定的な回答が県平均を超えており、児童の意欲が高まっていると考えられる。<br>●家庭学習は、1時間以上という児童が4分の1程度で低い。家庭学習課題の取り組み方に課題がある。 | 〇日頃の家庭での保護者の関わりや学校で児童たち自身に考えさせるような指導の仕方を継続してきた結果、「学習計画を立てて勉強する」やその他自己管理能力に関する項目で県平均を超えているものが多くある。<br>●「本を読んでいる」「勉強に図書館を利用している」「勉強に辞書を利用している」などの本や資料を読んで学習することや本に慣れ親しむという部分で課題がある。 |

## 【３】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）

５年生




６年生




【R6学力調査受検者数】　5年生 41 名　6年生 51 名

（欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示）